

2015.4.25 森美術館リニューアルオープン

——世界の現代アートをより多角的に体験する場へ——

森美術館は、このたび、約4か月にわたる改修工事期間を経て、2015年4月25日(土)にリニューアルオープンします。

2003年10月の開館から11年半、グローバル化の波は経済・政治情勢だけでなく、文化、とりわけ美術にも波及しています。アジアを見渡せば、香港、シンガポールでは現代アートの市場が活況を呈し、国際的なオークションやアートフェアでは、アジアのアートが圧倒的な存在感を示すようになりました。シンガポールには来たる10月に巨大な国立美術館が誕生し、香港では2018年に大型の現代美術館が登場します。

このように、現代アートのグローバル化の様相がますます多様化し複雑さを増すなか、多くの現代美術館は、世界のさまざまな地域の多様なアートをいかに理解し、歴史の上に位置付け、広く一般の人々に紹介していくのか、という新たな課題に直面しています。

森美術館はこうした状況を踏まえ、開館10周年を迎えた2013年10月に館のミッションとビジョンを改め、日本、アジア、そしてグローバルなアートシーンにおいての自らの役割と方向性を明らかにしました。

その実現のため、今般の施設改修では、多様化する現代美術の表現に柔軟に対応できるよう、展示空間の高機能化を図りました。さらに、三つの小プログラムを開始するほか、ミュージアムカフェ&レストランにおける現代アート作品設置の監修など新たな活動を通して、現代アートをより深く、また多角的に体験する場を創出してまいります。

創設者、森稔の志「個性的であること、ほかと異なること、新しいことに挑戦し続けること」を受け継ぎながら、独自の視点をもって新しい時代の美術館像を提示し、より創造的で革新に満ちた「アート&ライフ」の実現に貢献していきたいと思えます。

森美術館館長 南條史生



「シンプルなかたち展：美はどこからくるのか」展示風景イメージ

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

MORI ART MUSEUM

森美術館 ミッション・ヴィジョン

■ ミッション

グローバル化が加速する今日、私たちは、人と情報の活発な交流を通じて、他の地域の文化・歴史から多くのものを学び、より多様性に富んだ新しい生活を享受することが可能になっています。このような状況において、新しい価値創造の豊かな源泉であるアートや、それに隣接する創造活動の意義はますます重要になっています。

森美術館は、設立当初からの理念である「現代性」と「国際性」をもって時代に立脚し、世界の先鋭的な美術や建築、デザイン等の創造活動を展覧会と教育普及活動をとおして独自の視座で紹介していきます。

とりわけ、日本とアジアの美術に目を向け、その固有の文化的背景を勘案しつつ、新たな動向を世界の美術の文脈の中に位置づけることは当館の重要な役割の一つと考えます。世界に開かれた美術館として、また、アジアにおける現代美術の重要な拠点としての自負をもって活動していきます。

そして、「アート&ライフ」をモットーに、生活の中のあらゆる場面でアートを楽しむことができる豊かな社会の実現に向けて鋭意努力していきます。

■ ヴィジョン

1. アートや建築、デザイン等の創造活動を、文化、歴史、哲学、科学など幅広い文脈の中でとらえ、誰もが親しめる感動に満ちた美術館を目指します。
2. 世界の美術館や文化機関、あるいはアーティスト、キュレーター、コレクター、支援者と広く協働し、展覧会の企画・巡回などを通して共に発展することを目指します。
3. アートを通じて、多様な人々に対話し、批評的・建設的な言説を積み重ねる場を創出し、新たな美学と世界観を構築する基盤となります。
4. アーティストの制作支援、紹介展示、アジア現代美術の収集、あるいはギャラリーやアートフェアなどとの協力関係を通して、現代アートの発展に貢献します。
5. 多彩な教育普及プログラム、地域連携のアートイベント、パブリック・アートの振興などを通して、生活とアートを近づけ、東京からアートのある新たなライフスタイルを発信します。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

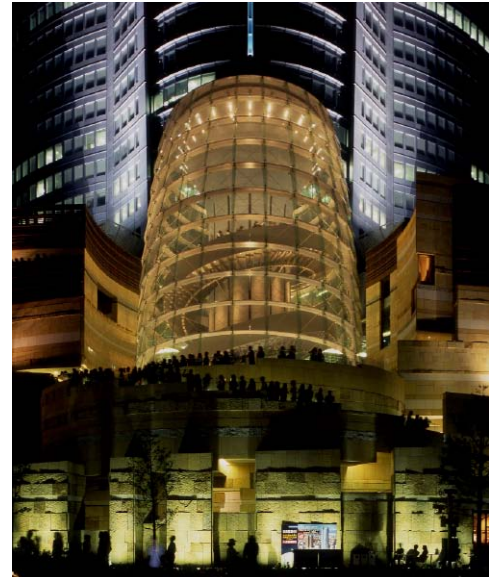
Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

森美術館について

■「文化都心」のシンボルとして

2003年10月、森美術館は、「文化都心」六本木ヒルズのシンボルとして、国際的な現代美術館を目指し開館しました。「文化は街のアイデンティティを形成する」という創設者、森稔の強い信念のもと、森タワーの最上層という視覚的にも象徴的な場所に置かれていましたが、当時、「現代美術で人は来ない」という声が多勢を占める中、それは革新的なチャレンジでした。現代美術は同時代を最も誠実に映し出す鏡であり、未知の領域と無限の可能性を秘め、未来に開かれている。それは時代に向き合い、文化を磁力に世界中から人々を惹きつける、六本木ヒルズが目指す街づくりの姿勢でもあります。開館から11年半、大方の予想を覆し、国内外から1350万人もの来館者を迎え、日本を代表する現代美術館としてその名が挙がるまでに成長しました。



■ グローバルスタンダードー世界に開かれた美術館を目指して

初代館長に日本初の外国人館長を起用、開設準備段階からアドバイザーとして世界の名だたる美術館館長を迎えた国際ナショナル・アドバイザー・コミッティーを設置(1999年～)するなど、組織、運営ともにグローバルスタンダードを意識し活動してきました。

◇来館者の約15%が利用する「バイリンガルサービス」

開館時より、館内サインや作品解説、チラシやウェブサイト、音声ガイドなどを日英バイリンガルで整備しています。さらに、ウェブサイトでは、2008年に中国語、韓国語サイトを追加しました。また、展覧会によっては個別の言語に応じたチラシや音声ガイドを制作し、外国人来館者へのよりきめ細かいサービスの充実を図っています。来館者のうち約15%の方がこうしたサービスを利用しています。

◇独自の企画展——43の企画展のうち、7展が国際巡回へ

「国際性」と「現代性」を理念に独自の視点で企画した展覧会を開催してきました。日本の先鋭なアートシーンの動向を3年に一度紹介する「六本木クロッシング」シリーズ、国内外の重要なアーティストの活動を紹介する個展、特定の主題のもとに古今東西の多様な作品を紹介するテーマ展、特定の国、地域の現代美術を紹介する地域展、さらに建築やファッションの展覧会など、グローバルなネットワークを駆使し、多彩な構成で展開しています。これまで開催した43の企画展のうち、7展が国際巡回を果たしています。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■「アート&ライフ」—新しいライフスタイルの提案

館のモットーとする「アート&ライフ」—現代アートをより身近なものに—の実現のため、さまざまな取り組みを行ってきました。

◇22時まで開館(火曜日を除く)

開館当初から、火曜日を除き夜22時迄開館し、平日の夜でも学校や仕事帰りに美術館を訪れることができる、新たなライフスタイルを提案しました。17時以降の平均入館者数は全体の30%を占めています。

◇展望台共通チケット

美術館運営の新たなビジネスモデルとして、美術館と展望台を共通チケットにすることにより、現代アートに馴染みのない人でも気軽に鑑賞できる仕組みを整えました。

◇パブリックアートの監修

美術館に行かずとも街の中で気軽にアートに触れられる、パブリックアート。六本木ヒルズの随所にあるパブリックアートやストリートファニチャーのほか、森ビルが手掛ける虎ノ門ヒルズ、アークヒルズ フロントタワー、アークヒルズ 仙石山森タワー、上海環球金融中心においても、パブリックアートの選定、監修に携わっています。

■「六本木」をアートの街へ——文化は街のアイデンティティを形成する

2007年、六本木エリアに国立新美術館、サントリー美術館が誕生したことを機に3館で「六本木アート・トライアングル」を結成しました。この連携活動が基盤となり、2009年、六本木の街を舞台とした一夜限りのアートイベント「六本木アートナイト」に発展、以来毎年春に開催され※、今春6回目を迎えます。昨年度は約70万人を動員し、六本木を象徴する恒例のアートイベントとして定着しつつあります。界限にはアートギャラリーも集積し、六本木は着実にアートの街へと変貌を遂げています。 ※2011年は東日本大震災のため中止



虎ノ門ヒルズ パブリックアート
ジャウメ・プレサ 《ルーツ》
2014年
ステンレススチール、塗装
H10 x W5.5 x D6.5m



「六本木アートナイト2014」の様子

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■企画展 I

森美術館リニューアルオープン記念

シンプルなかたち展：美はどこからくるのか

2015年4月25日(土)ー7月5日(日)

森美術館×ポンピドゥー・センター・メス×エルメス財団、共同企画！

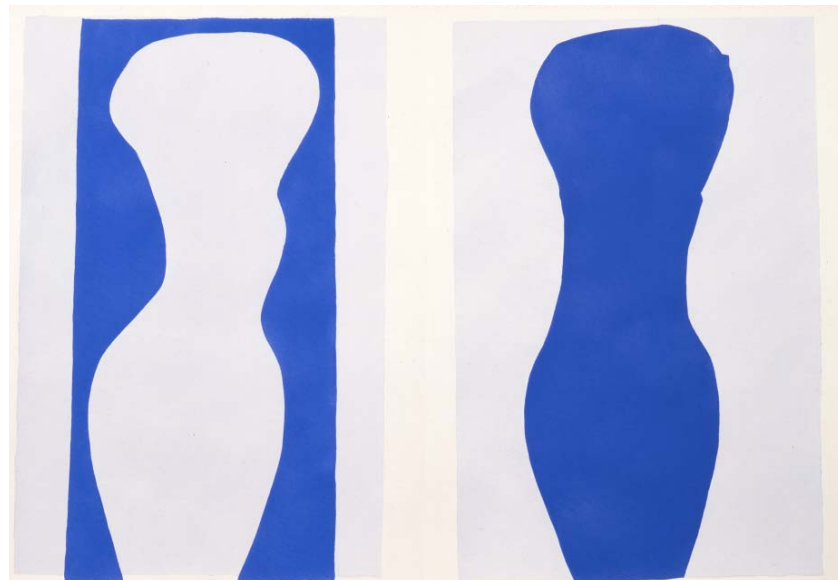
19世紀から20世紀にかけて、ヨーロッパでは数学、機械工学、生物学、地質学や考古学の探求の中で「シンプルなかたち」の美学が再認識され、工業製品や建築のデザインなどに多大な影響を与えました。同様に、その品格ある魅力は多くのアーティスト達を魅了し、近代美術の多数の名作を生み出しました。

一方、このような単純で美しい「シンプルなかたち」は、自然の中や、世界各国のプリミティブアート、民俗芸術、伝統文化の中にも、数多く見出すことができます。日本においては、工芸品や茶道具、仏像や禅画などに同様の美学が体現されています。

本展は、このような古今東西の「シンプルなかたち」約130点を9つのセクション(1. 形而上学的風景、2. 孤高の庵、3. 宇宙と月、4. 力学的なかたち、5. 幾何学的なかたち、6. 自然のかたち、7. 生成のかたち、8. 動物と人間、9. かたちの謎)で構成します。古くは先史時代の石器から、現代アーティストによるダイナミックで先鋭的なインスタレーションまで、地理的なひろがりや歴史的なつながりを示しながら展望し、時空を越えた普遍的な美を描き出します。「シンプルなかたち」が備える普遍的な美は、私たちが生きる上で真の豊かさとは何かを問い直すことでしょう。

出展作家 ※姓のアルファベット順

ジャン・アルプ、エティエンヌ・ピオティ、カール・ブロスフェルト、コンスタンティン・ブランクーシ、ブラッサイ、長次郎、ル・コルビュジエ(コレクターとして出展)、マルク・クチュリエ、マルセル・ダッソー、アルブレヒト・デューラー、オラファー・エリアソン、円空、ルチオ・フォンタナ、スザンナ・フリッチャー、橋本平八、バーバラ・ヘップワース、池大雅、ジャン＝パティスト・ロメ・ド・リール、アン・ヴェロニカ・ヤンセンズ、トーマス・ジェファーソン(発案者として出展)、アニッシュ・カプーア、エルズワース・ケリー、クー・ボンチャン、ジェルメーヌ・ウルル、フランティシエク・クブカ、黒田泰蔵、李禹煥、ロバート・メイプルソープ、エティエンヌ＝ジュール・マレー、アンリ・マティス、アンソニー・マッコール、ジョン・マクラッケン、ヘンリー・ムーア、パトリック・ヌー、カールステン・ニコライ、西川勝人、大巻伸嗣、岡田紅陽、岡崎和郎、ガブリエル・オロスコ、シャルロット・ベリアン、アントワーヌ・ベヴスナー、パブロ・ピカソ、マン・レイ、ロベール・ルリコレ、メダルド・ロッソ、エマニュエル・ソーニエ、仙厓、雪舟、ホセ・マリア・シンリア、カール・シュトルーエ、杉本博司、田中信行、ヴォルフガング・ティルマンズ、蔡佳蔵(ツァイ・チャウエイ)、グザヴィエ・ヴェイヤン、ノット・ヴィタル、ウエンツェル



アンリ・マティス
《[ジャズ]9 形態》
1947年
ステンシル、紙
40.8 x 57.7 cm
所蔵：神奈川県立近代美術館

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

開催概要

主催: 森美術館、ボンピドゥー・センター・メス **特別共催:** エルメス財団

助成: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、笹川日仏財団

協賛: 株式会社大林組

協力: エールフランス航空/KLMオランダ航空、シャンパーニュ ポメリー、ボンベイ・サファイア

キュレーター: ジャン・ド・ロワジー(パレ・ド・トーキョー プレジデント)、南條史生(森美術館館長)

アソシエイト・キュレーター: サンドラ・アダム=クラレ(インデペンデント・キュレーター)、椿 玲子(森美術館アソシエイト・キュレーター)

会期: 2015年4月25日(土)ー7月5日(日)

会場: 森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

開館時間: 10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 | * 4/25(土)は「六本木アートナイト2015」開催に伴い翌朝6:00まで

* 5/5(火・祝)は22:00まで * いずれも入館は閉館時間の30分前まで * 会期中無休

入館料: 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳~中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

* 表示料金に消費税込 * 4/29(水・祝)以降は、本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(屋上 スカイデッキを除く)

* 屋上 スカイデッキへは別途料金(500円)がかかります

お問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

同時開催

「MAMコレクション001:ふたつのアジア地図——小沢剛+下道基行」

「MAMスクリーン001:ビル・ヴィオラ初期映像短編集」

「MAMリサーチ001:グレート・クレセント 1960年代のアートとアジテーション——日本、韓国、台湾」

同時期に六本木ヒルズ森タワー52階で開催される展覧会

■ 展望台 東京シティビュー内スカイギャラリー

「スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン」

会期: 2015年4月29日(水・祝)ー6月28日(日)

会場: 六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー内スカイギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

開催時間: 10:00-22:00(最終入場:21:30) * 会期中無休

入場料: 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳~中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

* 「シンプルなかたち展」チケットで入場可 * 展望台 東京シティビューへも入場可 * 屋上 スカイデッキへの入場は、別途料金(500円)がかかります

■ 森アーツセンターギャラリー

「連載完結記念 岸本斉史 NARUTOーナルトー展」

会期: 2015年4月25日(土)ー6月28日(日)

会場: 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

開催時間: 詳細は公式サイト参照 * 会期中無休

入場料: 一般・学生2,000円、中学・高校生1,500円、4歳~小学生800円

* 「シンプルなかたち展」チケットでは入場できません。別途料金がかかります。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■企画展 2

ディン・Q・レ展：明日への記憶

2015年7月25日(土)～10月12日(月・祝)

世界で最も活躍するベトナム人アーティスト、待望の日本初個展

ディン・Q・レはカンボジアとの国境付近のハーティエンに生まれ、10歳の時、ポル・ポト派の侵攻を逃れるため、家族とともに渡米しました。写真とメディアアートを学んだ後、ベトナムの伝統的なゴザ編みから着想を得た、写真を裁断してタペストリー状に編む「フォト・ウィービング」シリーズ(1989年～)を発表し、一躍注目されることとなります。また、レは綿密なリサーチとインタビューに基づき、人々が実体験として語る記憶に光を当てます。国際舞台への出世作となった映像インスタレーション作品《農民とヘリコプター》(2006年)では、自作のヘリコプターの開発に挑むベトナム人男性を中心に、ベトナム人と戦争との複雑な関係を巧みに描き出しました。

ベトナム戦争終結から40年、日本にとっては戦後70年の節目を迎えたいま、国家や社会の「公式な」歴史の陰で語られることのなかった市井の人々の名もなき物語を読み直しつつ、アートと社会のより密接な関わりを探ることはきわめて重要な課題ではないでしょうか。本展ではディン・Q・レの作品とユニークな活動を通して、私たちの過去と現在、そして未来について考えます。



《無題(パラマウント)》
2003年
Cプリント、リネンテープ
所蔵：Ann and Mel Schaffer Family, New York

ディン・Q・レ

1968年、ベトナム、ハーティエン生まれ。ホーチミン在住。1978年、家族とともにアメリカへ移住。1989年、カリフォルニア大学サンタバーバラ校にて美術学士課程修了、1992年、ニューヨーク視覚芸術学校美術修士課程修了。

主な個展にシャーマン現代美術基金(シドニー、2011年)、ニューヨーク近代美術館(2010年)、タフツ大学アートギャラリー(マサチューセッツ、2009年)、アジア・ソサエティ(ニューヨーク、2005年)など。

主な国際展にメディアシティ・ソウル2014(ソウル市立美術館)、ドクメンタ13(カッセル、ドイツ、2012年)、シンガポール・ビエンナーレ(2008年/2006年)、第50回ヴェネチア・ビエンナーレイタリア館(2003年)など多数。



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

開催概要

主催: 森美術館

企画: 荒木夏実(森美術館キュレーター)

会場: 森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

会期: 2015年7月25日(土) - 10月12日(月・祝)

開館時間: 10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 *ただし9/22(火・祝)は22:00まで

*いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料: 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳~中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料金に消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(屋上 スカイデッキを除く)

*屋上 スカイデッキへは別途料金(500円)がかかります

お問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

同時開催

「MAMコレクション002: 存在と空間——ソ・ドホ+ ポー・ポー」

「MAMスクリーン002: ゴードン・マッタ=クラーク記録映像集」

「MAMリサーチ002: ロベルト・チャベットとは誰か?——フィリピン現代アート的发展とともに」

同時期に六本木ヒルズ森タワー52階で開催される展覧会

■ 森アーツセンターギャラリー

「機動戦士ガンダム展 THE ART OF GUNDAM」

会期: 2015年7月18日(土) - 9月27日(日)

会場: 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

入場料: 一般・大学生2,000円、中学・高校生1,500円、4歳~小学生800円

*「ディン・Q・レ展」チケットでは入場できません。別途料金がかかります。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■企画展 3

村上隆の五百羅漢図展

2015年10月31日(土)ー2016年3月6日(日)

国内では14年ぶりとなる村上隆の個展

村上隆(1962年生まれ)は、「オタク文化」と関連付けられるようなキャラクターを用いた各種作品だけでなく、「スーパーフラット」セオリーを提唱し、アートイベント「GEISAI」や若手アーティストのプロデュース、企業ブランドやミュージシャンとのコラボレーション、さらには映画やアニメ制作といった幅広い活動を展開する世界で最も活躍の著しい日本人アーティストの一人として知られます。ロサンゼルス現代美術館を皮切りに世界を巡回した「©MURAKAMI」展(2007年)、ヴェルサイユ宮殿での「MURAKAMI VERSAILLES」展(2010年)、カタールでの「Murakami - Ego」展(2012年)など、各国の美術館では大規模な個展が数多く開催されていますが、日本での本格的な展示は非常に限られており、今回の企画は待望の展覧会といえるでしょう。

本展は、東日本大震災を機に仕上げられた高さ3メートル、全長100メートルもの超絵画大作《五百羅漢図》(2012年)を中心に、最新の大型の彫刻作品や絵画作品なども含めて構成される予定です。日本初公開となる《五百羅漢図》は、有限の生と自然と宇宙の無限が交錯するダイナミックなヴィジョン、そこに込められた宗派を超えた祈りの力が注目され、作家の新たな関心と方向性を感じさせます。このように本展は、作家の最高傑作ともいわれる《五百羅漢図》等の作品を通して、社会の混乱と絶望と希望、宗教と芸術について、さらには、我々の住む世界、人間のリアリズムと本質に、芸術はどれだけ肉薄していけるかという村上隆の大きな問いと、その創作に迫る極めて貴重な機会となるでしょう。



《五百羅漢図》 2012年
アクリル、キャンバス、板にマウント 302 x 10,000 cm 個人蔵
展示風景: 「Murakami - Ego」アル・リワーク展示ホール、ドーハ、2012年
撮影: GION
©2012 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

開催概要

主催：森美術館、朝日新聞社、NHKプロモーション

企画：三木あき子(ゲスト・キュレーター)、南條史生(森美術館館長)

特別企画協力：辻 惟雄(美術史家)

会期：2015年10月31日(土) - 2016年3月6日(日)

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

開館時間：10:00-22:00 | 火 10:00-17:00 | * 11/3(火・祝)は22:00まで

* いずれも入館は閉館時間の30分前まで * 会期中無休

入館料：一般 1,600円、学生(高校・大学生) 1,100円、子供(4歳~中学生) 600円、シニア(65歳以上) 1,500円

* 表示料金に消費税込 * 展望台 東京シティビュー、屋上 スカイデッキへは別途料金がかかります

お問い合わせ：Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

関連情報

「村上隆のスーパーフラットなコレクション—蕭白、魯山人からキーファーまで—(仮称)」

村上隆によって蒐集された、国内外の様々な美術品を初公開。作家の幼少期の原体験や若き日に受けた刺激・共感に注目、美意識の源泉や価値創造のメカニズムについて考えるとともに、既存の美術の文脈に問いを投げ掛けます。

会期：2016年1月30日(土)-4月3日(日) 会場：横浜美術館(神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)

詳細：<http://yokohama.art.museum>

増上寺宝物展示室にて狩野一信の《五百羅漢図》を展示

2015年4月2日(木)にオープンする、増上寺宝物展示室にて、英国ロイヤルコレクション所蔵の「台徳院殿靈廟模型」のほか、寺宝を公開。村上隆が《五百羅漢図》制作の際に着想を得た、幕末の絵師・狩野一信の《五百羅漢図》も展示替えをしながら順次公開されます。「村上隆の五百羅漢図展」の会期中には、《五百羅漢図》の特別展も開催される予定です。

会期：2015年4月2日(木) - 会場：増上寺宝物展示室(東京都港区芝公園4-7-35 増上寺 地下1階)

詳細：<http://www.zojoji.or.jp>

同時期に六本木ヒルズ森タワー52階で開催される展覧会

■ 展望台 東京シティビュー内スカイギャラリー

「フォスター+パートナーズ展」

会期：2016年1月1日(金・祝) - 2月14日(日)

会場：六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー内スカイギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

開催時間：10:00-22:00 (最終入場：21:30) * 会期中無休

入場料：一般 1,800円、学生(高校・大学生) 1,200円、子供(4歳~中学生) 600円、シニア(65歳以上) 1,500円

* 「村上隆の五百羅漢図展」チケットでは入場できません。別途料金がかかります。

* 屋上 スカイデッキへの入場は、別途料金(500円)がかかります

■ 森アーツセンターギャラリー

「フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」

会期：2016年1月16日(土) - 3月31日(木) 会場：森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

* 「村上隆の五百羅漢図展」チケットでは入場できません。別途料金がかかります。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■企画展 4

フォスター+パートナーズ展

2016年1月1日(金・祝)ー2月14日(日)

建築家ノーマン・フォスターによって1967年に設立されたフォスター^{アンド}パートナーズは、世界各地にプロジェクトを実現している国際的な設計組織です。ガーキンの愛称で知られるロンドンのランドマーク《スイス・リ本社ビル》、東西ドイツ統合の象徴として、ベルリン観光のメッカであるドイツ国会議事堂《ライヒスターク》、先の北京オリンピックにあわせて完成し、現在、世界第2位の規模を誇る《北京首都国際空港》など、世界の主要な都市でランドマークとなった現代建築史上の名作を生み出しています。フォスター+パートナーズは、これまで一貫して、国々の歴史や伝統をいかに未来へと継承するか、限りある地球環境における空間とは何かといったテーマを追求し、革新的なアイデアで建築や都市を創り続けてきました。

本展は、約50年にわたる彼らの設計活動を総合的に紹介する日本初の展覧会です。2015年4月、六本木ヒルズ展望台 東京シティビューのリニューアルを機に生まれた新たな展示空間に、模型、映像、家具など膨大な作品群が、東京の絶景パノラマを背景に展示されます。



《ドイツ連邦議会新議事堂、ライヒスターク》
1997-1999年 ベルリン
撮影: Rudi Meisel

《スイス・リ本社ビル(30 セント・メアリー・アックス)》
1997-2004年 ロンドン
撮影: Nigel Young, Foster + Partners

開催概要

主催: 森美術館

企画: 森美術館、フォスター+パートナーズ

会場: 六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー内スカイギャラリー 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー52階

開館時間: 10:00-22:00(最終入館: 21:30) *会期中無休

入館料: 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳~中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料金を消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く) *屋上 スカイデッキへは別途料金(500円)がかかります。

*森美術館「村上隆の五百羅漢図展」へは別途料金がかかります。

お問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

*展覧会名は変更となる場合があります。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 巡回展情報

【国内巡回】

ゴー・ビトゥイーンズ展：子どもを通して見る世界

森美術館会期：2014年5月31日(土) – 8月31日(日)

(巡回展会場) (巡回展会期)
高知県立美術館 2015年4月5日(日) – 6月7日(日)

【国際巡回】

リー・ミンウェイとその関係展：

参加するアートー見る、話す、贈る、書く、食べる、そして世界とつながる

森美術館会期：2014年9月20日(土) – 2015年1月4日(日)

(巡回展会場) (巡回展会期)
台北市立美術館(台湾) 2015年5月30日(土) – 9月6日(日)
オークランド美術館(ニュージーランド) 2016年4月16日(土) – 8月上旬(予定)



山本高之
《どんなじごくへいくのかな、東京》
2014年
「ゴー・ビトゥイーンズ展：子どもを通して見る世界」展示風景、森美術館
撮影：阪野貴也



リー・ミンウェイ
《プロジェクト・繕(つくる)う》
2009/2014年
「リー・ミンウェイとその関係展：参加するアートー見る、話す、贈る、書く、食べる、そして世界とつながる」展示風景、森美術館、
撮影：吉次史成

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

森美術館のコレクションを常設の展示室で順次公開



MAMコレクション

森美術館は、2005年夏より企画展のための新作を中心に作品を収集してきました。日本を含むアジアの現代美術に焦点をあてたコレクションは、現在、400点近くを数えます。作品を収集し、公開することは美術館の基本的な活動のひとつですが、リニューアルを機に常設の展示室を新設し、コレクションを順次、多様なテーマに沿って紹介する「MAMコレクション」シリーズをスタートします。ダイナミックな眺望のあるリビングルームのような空間で現代アートを楽しむ、美術館のモットー「アート&ライフ」を体現したプログラムです。

MAMコレクション001：ふたつのアジア地図——小沢剛＋下道基行

会期：2015年4月25日(土)－7月5日(日)

企画：片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

「MAMコレクション001」では、世代の異なるふたりのアーティスト、小沢剛(1965年生まれ)と下道基行(1978年生まれ)が見てきたアジアを、「ふたつのアジア地図」と題して紹介します。小沢は1980年代末から世界各地を旅し、その場の風景に伝統的な日本の風景を象徴する地蔵を添えて撮影してきました。本展では、この「地蔵建立」シリーズのうちアジア各地で撮影された作品を展示します。一方の下道基行は、2006年から2012年にかけて、日本の国境の外側にある太平洋戦争の遺物として、いまでも残る鳥居を撮影しました。明治から終戦まで統治した台湾や韓国から、サハリン、サイパンまで、本殿を失った鳥居の歴史と現在が静かに伝わってきます。彼らが歩いたアジアの軌跡からは、政治的、社会的な変化とともに、そこで積み重ねられた人々の営みが見えてくることでしょう。

MAMコレクション002：存在と空間——ソ・ドホ＋ポー・ポー

会期：2015年7月25日(土)－10月12日(月・祝)

企画：片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

ソ・ドホ(1962年生まれ)は、1990年代以降、国際的に活躍する韓国の代表的アーティストのひとりです。紗幕で既存の空間を再現する代表的なインスタレーションのシリーズと併行して、個と全体という関係性のなかでアイデンティティを問う多様な作品も制作していますが、《因果関係》もその一例です。おびたしい数の小さな身体が連なって構成される全体像は、周囲との関係性において成立するわれわれの存在や空間を示唆します。

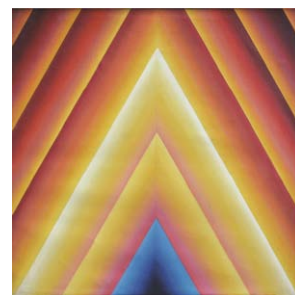
ポー・ポー(1957年生まれ)は、ミャンマーで1980年代以降のコンセプチュアル・アートを牽引してきたアーティストです。とりわけ1960年代から続いた軍事政権下、外の世界との交流が限られるなか、独学で哲学や現代アートを会得し、その実践を平面作品から立体、インスタレーションへと発展させてきました。1985年作の5点の絵画は、ポー・ポーが20歳の頃に興味を持った仏教哲学アビダルマに基づき、宇宙の四大要素、「地」(Pathavi)、「水」(Apo)、「火」(Tejo)、「風」(Vayo)に、それぞれ、四角形、半円形、三角形、円形という幾何学的形体を対応させ、さらにそれらがすべて融合した「空間」(Aksa)を加えたものです。



小沢剛 《地藏建立——上野駅[東京]》
1988年
ラムダプリント 18.2×15.3 cm



下道基行
《torii サハリン ロシア》
2006-2012年
タイプCプリント 100×150 cm



ポー・ポー
《火(動的エネルギー)》
1985年
油彩、カンバス 75×75 cm



ソ・ドホ
《因果関係》
2008年 インスタレーション
アクリル樹脂、アルミニウム板、ステンレススチール・フレーム、ステンレススチール・ケーブル、繊維 120×295 cm

※すべて 所蔵：森美術館

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

映像プログラムを単独企画として刷新



MAMスクリーン

1960年代に始まったビデオ・アートは、映像技術の革新にともなって飛躍的な発展をとげてきました。複数のメディアを融合させた映像インスタレーションも増えているなか、「MAMスクリーン」では、世界各地のシングル・チャンネル映像作品を会期中毎日上映し、280インチの大スクリーンでご覧いただけます。映像作品を集中してじっくり鑑賞いただけるよう、展覧会の枠組みから独立したプログラムとしてスタートします。

2015年度はビデオ・アートの先駆者として多大な影響を与え続けているビル・ヴィオラと、映像の持つ「記録」という特性を通して1970年代当時のパフォーマンス的な実践を今日に伝えるゴードン・マッタ=クラークの作品を紹介します。

MAMスクリーン001:ビル・ヴィオラ初期映像短編集

会期: 2015年4月25日(土) - 7月5日(日)

企画: 近藤健一(森美術館キュレーター)

1980年から一年半、日本に滞在し、2011年高松宮殿下記念世界文化賞受賞するなど日本にもなじみの深いビル・ヴィオラ(1951年生まれ)ですが、活動初期には、ビデオというメディアに固有のループ、早送り、スーパーインポーズといった技法の活用により、「時間」の要素を基本的な性質として持つビデオ特有の表現を追求しました。今回は初期の代表作である、《映り込む池》(1977-79年)や《聖歌》(1983年)、築地市場で撮影された《ヴェジタブル・メモリー》(1978-80年)など、70年代後半~80年代前半の作品を紹介し、ビデオ・アートの第一人者の制作の原点を振り返ります。



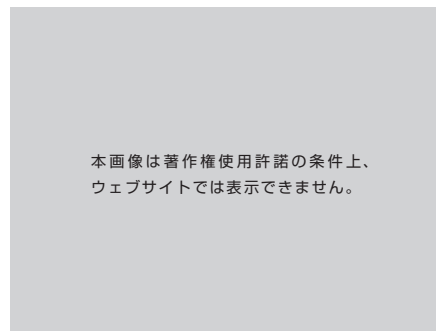
ビル・ヴィオラ
《日の老いたる者(天地創造の神)》 1979-81年
ビデオテープ(デジタル映像に変換)、カラー、
ステレオ・サウンド 12分21秒
配給:エレクトロニック・アーツ・インターミックス(EAI)
写真: Kira Perov

MAMスクリーン002:ゴードン・マッタ=クラーク記録映像集

会期: 2015年7月25日(土) - 10月12日(月・祝)

企画: 近藤健一(森美術館キュレーター)

マッタ=クラーク(1943-1978年)は、彫刻やインスタレーションの制作、パフォーマンスやレストラン経営等、多彩な活動を行いましたが、建築物を切断する大規模なプロジェクトで最もよく知られており、これらを記録した映像作品も多数残しました。今回は、ニュージャージー州の一軒屋を二つに切断した《分割》(1974年)、パリの再開発により取り壊しが決まったビルに穴を開ける《円錐の交差》(1975年)という2つの代表的プロジェクトに加え、マンハッタンの時計台に作家自身が上り、歯を磨く、髭を剃るといったパフォーマンスを行う《クロックシャワー》(1973年)など、隠れた名作も上映します。これらのプロジェクトは一過性のものですが、記録映像は現場の状況をどのように再現しているのでしょうか?プロジェクトそのものとは別の独立した作品として考えることも可能ではないでしょうか?



本画像は著作権使用許諾の条件上、
ウェブサイトでは表示できません。

ゴードン・マッタ=クラーク
《円錐の交差》 1975年
16mmフィルムをビデオに変換、カラー、
サイレント 18分40秒
配給:エレクトロニック・アーツ・インターミックス(EAI)
©Estate of Gordon Matta-Clark / ARS, N.Y. & JASPAR,
Tokyo
E1493

※企画展パブリックプログラム等実施のため、「MAMスクリーン」の上映がない時間帯があります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
www.mori.art.museum

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

展覧会のリサーチ・プロセスを独立したプログラムとして展示

MAM RESEARCH MAMリサーチ

森美術館は、日本とアジアの現代美術をプログラムの主要な対象に位置付けていますが、ひとことで「アジア」といってもその領域は広大で、全体像を把握するのは容易ではありません。新たにスタートする「MAMリサーチ」はアジア各地におけるアーティスト、キュレーター、芸術運動、インスティテューションなどに注目しながら、社会的にも政治、経済的にも複層的な背景から生まれてきたアジアの現代アートについて考察し、その歴史的文脈を明らかにしていこうとする試みです。アジア各地のアーカイブ、研究機関、研究者などとの協働企画を前提とし、展示は作品に限定せず、映像、写真、文書、史料などを紹介します。森美術館を多様な議論のためのプラットフォームとするプログラムです。

MAMリサーチ001:グレート・クレセント 1960年代のアートとアジテーション ——日本、韓国、台湾

会期:2015年4月25日(土)ー7月5日(日)

主催:森美術館、パラサイト香港、ザ・キュラトリアル・イニシアチブ「フューチャー・ミュージアム・フォー・チャイナ」

企画:コスミン・コスティナス(パラサイト・ディレクター)、ドリュン・ジョン(M+チーフ・キュレーター)、
レスリー・マ(インク・アート、M+キュレーター)

最初の企画となる「グレート・クレセント:1960年代のアートとアジテーション——日本、韓国、台湾」は、2013年に香港のオルタナティブ・スペース「Para Site (パラサイト)」で展示された企画を再構成したものです。

近年、20世紀を牽引した欧米中心の美術史だけでなく、モダニズムの複層的な発展を非欧米圏からも見いだそうとする動きが広がっています。本展のタイトルは、戦後アメリカのアジア対策の一環として、日本から東南アジアを経てペルシア湾までを三日月型に繋ぐ地域を「グレート・クレセント(大三日月)」と呼んだことに由来します。明治期から第二次世界大戦終戦まで、日本は朝鮮半島と台湾を統治していました。本展は、1960年代、それぞれ異なる道を歩みはじめた各地域で、欧米から輸入されたモダニズムではなく、自分たちのリアルな表現を模索した反体制的、反芸術的な活動を、比較検証する試みです。



黄華成(ホワン・ホウチェン)
《大台北画派秋期展覧会》
海天ギャラリー、台北、1966年
撮影・画像提供:荘璽

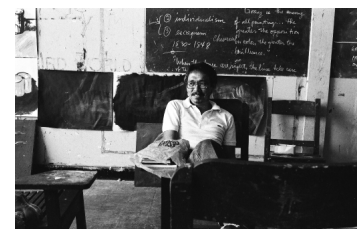
MAMリサーチ002:ロベルト・チャベットとは誰か?——フィリピン現代アートの発展とともに

会期:2015年7月25日(土)ー10月12日(月・祝)

主催:森美術館、キング・コング・アート・プロジェクト・アンリミテッド、フィリピン

企画:片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)、キング・コング・アート・プロジェクト・アンリミテッド

ロベルト・チャベット(1937-2013)は、アーティスト、キュレーター、初代フィリピン文化センター館長、アーティスト主導による展示スペース「Shop6」主宰者、大学教授など極めて多岐にわたる立場で1960年代以降のフィリピンにおける現代・アートの発展に多大な貢献をしてきました。2013年の没後も、香港のアジア・アートアーカイブが彼の業績をまとめたオンライン・アーカイブを整備し、2014年秋にはフィリピン文化センターでトリビュート展が開催されています。現代アートに関する彼の思想は、フィリピン国内で世代を超えた影響を残していますが、国際的な評価は未だ充分だとはいえません。本展では、チャベットの芸術的な実践の総体を、作品に限定せず、多様な角度から浮き彫りにします。



ロベルト・チャベット、
フィリピン大学美術学部にて。1983年
撮影: Soler Santos

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報:瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館



もう一步、美術館の中へ！

森美術館メンバーシップ・プログラム MAMC

メンバーシップの特典がバリューアップ！

「MAMC」とは、森美術館(MORI ART MUSEUM)で、現代美術(CONTEMPORARY ART)を、よりお楽しみいただくためのメンバーシップ・プログラムです。美術を鑑賞するだけでなく、アートファン同士の交流を深め、また、アーティストの活動を応援し、アートの世界を盛り上げていくことを目的としています。開館以来、森美術館への自由なご入館はもちろん、さまざまなイベントや企画に参加できる機会をメンバーに提供してきた本プログラムが、リニューアルオープンを機に、より充実したサービスと特典を提供するプログラムへと生まれ変わります。

●新しい特典

- ・フェローメンバー／ベネファクターメンバー共に、メンバーと同伴しなくても森美術館・東京シティビュー・スカイデッキに入館できる、ゲストカードを贈呈します。
- ・フェローメンバー／ベネファクターメンバー共に、ミュージアムショップでのお買い物はもちろん、ミュージアムカフェ&レストランでのお会計が10%OFFに。
- ・ベネファクターメンバーのご芳名が、森美術館ホームページと六本木ヒルズ森タワー3階のディスプレイに掲示されます。

●特典一覧

特典内容	フェロー 年会費 22,000円 (税込)	ベネファクター 年会費 44,000円 (税込)
1 森美術館、東京シティビュー、スカイデッキの入館料無料(メンバー本人および同伴者)	同伴者1名	同伴者2名
2 ゲストカード進呈*1 NEW	1枚	2枚
3 混雑時の優先入館	○	○
4 各展覧会内覧会およびオープニングレセプションへ同伴者のご招待	同伴者1名	同伴者2名
5 各展覧会の招待券を進呈	5枚	10枚
6 展覧会カタログ引換券を進呈(年間)	2枚	4枚
7 メンバー向けプライベートビューイング「MAMC ナイト」へ同伴者のご招待*2	同伴者1名	同伴者2名
8 メンバーズイベント「MAMC アニュアルカクテルパーティー」へご案内*3	同伴者1名	同伴者2名
9 パブリック・プログラムの無料参加またはご優待(一部対象プログラムあり)	○	○
10 メンバー向けメールマガジン「MAMC メンバーズ・エクスプレス」配信(不定期)	○	○
11 ミュージアムショップでのお買い物(書籍等一部除外品あり)、ミュージアムカフェ & レストランでのお会計が10%割引*4 NEW	○	○
12 六本木ヒルズクラブ(六本木ヒルズ森タワー51階)のご利用(フィフティワンのみ)*5		○
13 アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階)ライブラリーカフェのご利用(年間3回まで)*6		○
14 グランドハイアット東京宿泊料ご優待*7		○
15 六本木ヒルズ駐車券を1時間分進呈*8		○
16 芳名掲示(森美術館ウェブサイトおよび六本木ヒルズ森タワー3階のディスプレイ)*9 NEW		○

*1 「ゲストカード」は、ご家族やお友達にお渡しいただける森美術館、東京シティビュー、スカイデッキへの入館カードです。メンバー本人を同伴せずにご入館いただけます。ゲストカードをお忘れの場合は、通常料金を申し受けますのでご注意ください。破損・紛失等による再発行はできません。

*2 「MAMCナイト」は、火曜日の閉館後のギャラリーをMAMCメンバー貸し切りでお楽しみいただくイベントです。

*3 「MAMCアニュアルカクテルパーティー」はフェローおよびベネファクターメンバーを対象としたパーティーです。(参加費別途)

*4 ミュージアムショップには「森美術館 ミュージアムショップ」、「東京シティビュー スーベニアショップ」、「六本木ヒルズ アート&デザインストア」が含まれます。

*5 六本木ヒルズクラブ利用に関するお問い合わせ:六本木ヒルズクラブ 03-6406-6001

*6 アカデミーヒルズ利用に関するお問い合わせ:アカデミーヒルズ六本木ライブラリー事務局 03-6406-6650(平日10:00-19:00)

*7 グランドハイアット東京宿泊に関するお問い合わせ:グランドハイアット東京 宿泊予約 0120-088-188

*8 美術館または東京シティビューご来館時に、1日につき1枚。駐車券のご利用は森美術館インフォメーションへお申し出ください。

*9 匿名ご希望の場合は、お申し出ください。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館



一年間、何度でも楽しめる！

森美術館＋東京シティビュー パスポート

特典がさらに充実し、パスポートのデザインもリニューアル

「森美術館＋東京シティビュー パスポート」は、森美術館／展望台 東京シティビュー／屋上 スカイデッキの3施設に、1年間いつでも何度でもご入場いただけるお得な年間パスポートです。世界中のさまざまな現代アートの展覧会も、四季折々の東京の景観も、このパスポート1枚で思う存分お楽しみいただけます。東京シティビューの展望回廊内に新設される展望ギャラリースペース「スカイギャラリー」の展示も、こちらのパスポートでご覧いただけます。

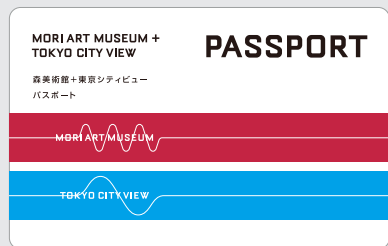
リニューアル・オープンに際し、パスポートデザインも刷新され、特典がさらにお得になります。また、期間限定の新規入会キャンペーンも実施。キャンペーン期間中には、限定デザインのパスポートも登場します。

●特典がさらにお得に

- ・ミュージアムショップでのお買い物、ミュージアムカフェ&レストランでのお会計が10%OFF(*リニューアル前は5%OFF)
- ・新設の「スカイギャラリー」(東京シティビュー展望回廊内)の展示も観覧可能

●パスポートデザインが刷新

リニューアル・オープンに際し、パスポートデザインが新しく生まれ変わります。



●リニューアル記念 新規入会キャンペーン 限定デザインのパスポートも登場！

期間中、通常6,000円(税込)のところ、3,000円(税込)でご入会いただけます。パスポートも、通常のデザインと、キャンペーン限定デザインの2種類から選べるいただけます。
(*限定デザインは先着500名様)

キャンペーン期間：2015年4月25日(土)～5月24日(日)
お申し込み場所：森美術館インフォメーション(六本木ヒルズ森タワー3階)



●基本情報

料金：6,000円(税込) 有効期限：発行日から1年間

●特典一覧

特典内容	
1	森美術館、東京シティビュー、スカイデッキの入館料無料
2	混雑時の優先入館
3	ご同伴者5名様まで、優待料金(一般1,800円⇒1,500円)でのご案内
4	ミュージアムショップでのお買い物(書籍等一部除外品あり)、ミュージアムカフェ&レストランでのお会計が10%割引 NEW

- *本パスポートのご提示で、登録日より1年間に限り森美術館、東京シティビュー、スカイデッキ、およびミュージアムカフェ&レストランに何度でもご入館いただけます。
- *本パスポートは、ご登録いただいたご本人様のみ有効です。他人への貸与・譲渡はできません。また払戻し、破損・紛失等による再発行はできません。
- *ご来館時に本パスポートをご提示ください。当日入館券を発行いたします。ご提示がない場合は通常料金を申し受けますのでご注意ください。
- *森美術館は展示替えにより閉館している場合があります。
- *スカイデッキは、強風、降雨、落雷等により予告なく閉鎖する場合があります。
- *ミュージアムショップには「森美術館 ミュージアムショップ」、「東京シティビュー スーベニアショップ」、「六本木ヒルズ アート&デザインストア」が含まれます。
- *ミュージアムカフェ&レストランは、貸切等によりご来店いただけない場合があります。また、イベントによって追加料金が必要になる場合があります。
- *森アーツセンターギャラリーへの入場の際は、別途追加料金が必要になります。
- *各施設での特別イベント開催時は、本パスポートでご入館いただけない場合があります。

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館



ミュージアムカフェ&レストランが5月下旬、52階にオープン！

■ Museum Café & Restaurant THE SUN & THE MOON

ミュージアムカフェ アンド レストラン ザ サン アンド ザ ムーン

「Museum Café & Restaurant THE SUN & THE MOON」は、カフェ「Museum Café THE SUN」とレストラン「Museum Restaurant THE MOON」から成る、料理、演出、サービスの全てにアートを感じるミュージアムカフェ&レストランです。

THE SUN & THE MOONがコンセプトにしているのは、私たちが世界を見るための「光」です。本質にこだわったお食事、墨、鉄、木、皮など多彩な自然素材を巧みに構成し、数寄を凝らした空間と、光、太陽、月などをテーマに森美術館がキュレーションした現代アート作品で世界中のゲストをお迎えます。

「アート&ライフ」—現代アートをより身近なものに—をモットーとする森美術館から、アートの楽しみ方の新たな提案です。

Museum Café THE SUN

カジュアルな雰囲気です時間を選ばず気軽にご利用いただけるカフェ。手頃な価格のセットメニューやサンドイッチなどの軽食、展覧会やイベントとのコラボレーションメニューも展開します。

Museum Restaurant THE MOON

アートと食の融合をテーマにしたレストラン。森美術館が監修する現代アート作品とフランス料理をベースに日本各地の食材や四季を表現する料理のガストロノミーを体感していただけます。メニューは季節に応じたコース料理を提供します。ランチ、ディナーともにシーンにより選べる3コースをご用意。

ランチ 2,700円/4,000円/7,000円

ディナー 7,000円/10,000円/15,000円

※上記料金は予定です(すべて税別)。

53階ミュージアムショップもリニューアル！

■ 森美術館ミュージアムショップ

装いも新たに森美術館内に再オープンする「森美術館ミュージアムショップ」。壁一面を占める高さ約4メートルのシンボリックな大型ブックシェルフ[※]には、森美術館のカタログや開催中の展覧会の関連書籍はもとより、現代アートのキーワードをもとに選書した1,500冊近くの書籍を取り揃えます。また、森美術館のオリジナルグッズも刷新。森美術館での最高のアート体験の思い出とともに、是非お持ち帰りください。

※ブックシェルフは5月中旬に設置予定。

営業時間：10:00-22:00(火曜日のみ17:00閉店)

※森美術館に準じる。

お問い合わせ：03-6406-6118



森美術館ミュージアムショップイメージ

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー／屋上 スカイデッキ

ミュージアム・クオリティのギャラリースペースを新設

六本木ヒルズ展望台 東京シティビューは、世界最大級の都市・東京の中心に位置し、海拔250メートルの屋内展望回廊と、海拔270メートルの屋外展望回廊「スカイデッキ」を有する展望施設です。東京タワー、東京スカイツリーなど、首都東京のランドマークはもちろん、天気の良い時は富士山までもが一望でき、日夜表情を変える「都市という名のアート」を鑑賞することができます。オープンエアの屋上「スカイデッキ」は、大空と風を体感でき、都心にいながら星空観察までも楽しめる特別な空間です。国内のみならず、外国人観光客や海外メディアからも、眺望のベストスポットとして注目されています。

リニューアル後の屋内展望回廊には、ミュージアム・クオリティのギャラリースペース「スカイギャラリー」が新設され、「都市型エンターテインメント」をテーマに、眺望と融合したイベントや展覧会を開催します。素晴らしい東京の景色とともに、国内外の観光客や都市生活者へ、様々な楽しみや刺激的な体験を提供します。

2015年度 展覧会

スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。

2015年4月29日(水・祝)ー6月28日(日)

ジョージ・ルーカス氏が世界中から選りすぐったアーティストに依頼し、「スター・ウォーズ」からインスピレーションを得て、彼らそれぞれの独自の解釈で描いた「スター・ウォーズ」のアート作品を一堂に展示しながら、「スター・ウォーズ」の魅力を「ビジョン」というテーマで紹介する企画展です。SF作品のビジュアル・デザインの第一人者シド・ミード、ファイナルファンタジーシリーズのキャラクターデザインを手がけた天野喜孝など様々なアーティストが手掛けた世界初公開の約60点のアート作品を始め、シリーズ6作品の映画制作で実際に使用されたルーカス・ミュージアム・オブ・ナラティブ・アート所蔵のコンセプトアートや衣裳、小道具など約100点が展示されます。

主催: 森アーツセンター (東京シティビュー)、NHKプロモーション

特別協力: ウォルト・ディズニー・ジャパン

協力: 全日本空輸、日本貨物航空、カラーキネティクス・ジャパン(東京展協力)

会場: 六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー内スカイギャラリー(六本木ヒルズ 森タワー52階)

開催時間: 10:00-22:00(最終入場: 21:30) *会期中無休

入場料: 一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳~中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

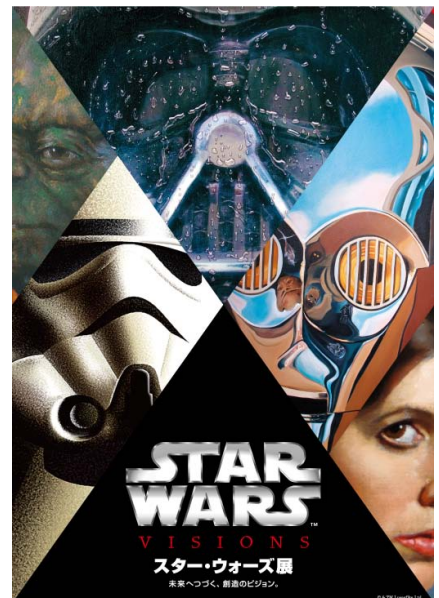
* 森美術館、展望台 東京シティビューへも入館可(スカイデッキを除く)

* 屋上 スカイデッキへの入場は、別途料金(500円)がかかります

* 「スター・ウォーズ展」の開催期間中、屋上 スカイデッキには、フォトロケーション(11:00-22:00 / 最終入場 21:30)が設置されます

公式サイト: <http://www.roppongihills.com/tcv/jp/sw-visions/>

お問い合わせ: 03-6406-6652



© & TM Lucasfilm Ltd.

広報お問い合わせ: スター・ウォーズ展 PR事務局(株式会社プラチナム内)担当: 丸山、益子、浜木
Tel: 03-5572-6072 Fax: 03-5572-6075 E-mail: dcp@vectorinc.co.jp

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 森アートセンターギャラリー

さらに幅広く多彩なコンテンツを提供

森アートセンターギャラリーは、六本木ヒルズ森タワー52階に位置し、展望台と隣接するアートスペースです。2004年に誕生して以来、世界の名だたる美術館の貴重なコレクションの企画展から、国内外で人気を誇る漫画・アニメ作品や映画、ファッション、デザインまで、幅広く多彩なテーマの質の高い展覧会を開催してきました。

リニューアル後も、国内外の様々なパートナーとの提携を通して、古今東西の優れた美術や芸術家の世界観に触れる機会、オリジナル映像や新しい技術演出を盛り込んだ作品を楽しむことができる、ユニークな機会を提供します。アートファンのみならず、より多くの方々が新鮮な驚きや心豊かになる感動を持ち帰ることができる場として、さらなる充実・深化を図り、森美術館と共に「アート＆ライフ」体験を提供します。

2015年度 展覧会

連載完結記念 岸本斉史 NARUTO -ナルト- 展

2015年4月25日(土) - 6月28日(日)

「週刊少年ジャンプ」で1999年に連載が始まり、国内外で絶大な支持を集めてきた『NARUTO -ナルト-』初の展覧会が、2014年11月の連載完結を記念して開催されます。作品は主人公の少年忍者ナルトが最強の忍者“火影(ほかげ)”を目指す物語。単行本の世界累計発行部数は2億部を超える世界的大ヒットマンガです。展覧会場には、150点以上の原画やカラーイラスト、迫力のシアター、立体造形など、さまざまな仕掛けが施された展示が満載。NARUTO -ナルト- 展オリジナルグッズも充実のラインナップで販売します。15年にわたる物語の壮大な世界観すべてを体感することができる展覧会です。

主催: 朝日新聞社、集英社、テレビ東京、びえろ、森アートセンター
協賛: グリー、大日本印刷、バンダイ、バンダイナムコゲームス、バンプレスト、メガハウス、プレックス、ローソン、ローソンHMVエンタテインメント

会場: 森アートセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)
開催時間: 詳細は公式サイト参照 *会期中無休
入場料: (当日)一般・学生2,000円、中学・高校生1,500円、4歳~小学生800円
公式サイト: <http://naruto-ten.com>
問合せ: 050-5542-8600(ハローダイヤル) / 8:00-22:00 年中無休)

広報お問い合わせ: 「NARUTO -ナルト- 展」PR事務局(株式会社プラチナム内) 担当: 松山、清水
Tel: 03-5572-6071 Fax: 03-5572-6075 E-mail: t-matsuyama@vectorinc.co.jp



©岸本斉史 スコット/集英社

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤
Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

機動戦士ガンダム展 THE ART OF GUNDAM

2015年7月18日(土)ー9月27日(日)

ガンダムシリーズの記念碑的な第一作「機動戦士ガンダム」の魅力を、徹底的に解き明かす、質量ともに史上最大の展覧会です。魅力の神髄に迫るため、テレビ・劇場版の制作に用いられた原画や資料を1,000点以上展示。物語の生みの親・富野喜幸総監督(現・富野由悠季氏)の企画段階のメモ、美術監督の中村光毅氏の美術設定や美術ボード、キャラクターデザインを手がけたアニメーション・ディレクターの安彦良和氏が描いた原画の数々、メカニックデザイナーの大原邦男氏がデザインしたモビルスーツの設定画など、多数展示します。そのほか、会場内にはシアターを特設し、ホワイトベースでブライトら同艦クルーと大気圏突入をめぐる戦いを体験できる、サンライズ制作の新作映像「大気圏突入」を上映します。

主催: 朝日新聞社、創通、サンライズ、バンダイ、バンダイナムコゲームス、バンダイビジュアル、森アーツセンター

会場: 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

入場料: (当日)一般・大学生2,000円、中学・高校生1,500円、4歳~小学生800円

公式サイト: www.gundam-ten.jp

問合せ: 03-5777-8600(ハローダイヤル)



©創通・サンライズ

広報お問い合わせ: 「機動戦士ガンダム展」広報事務局(共同 PR 内) 担当: 三井、菅原
Tel: 03-3575-9823 Fax: 03-3574-0316 E-mail: gundampr@kyodo-pr.co.jp

「フェルメールとレンブラント: 17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」

2016年1月16日(土)ー3月31日(木)

本展覧会では、「光の画家」として知られるデルフト出身のヨハネス・フェルメールやアムステルダムで名声を手にし、独特な発想、技法と構図で人気を得たレンブラント・ファン・レインをはじめフランス・ハルス、ヤン・ステーン、ピーテル・デ・ホーホなど、17世紀オランダ黄金時代を彩った画家たちの作品を紹介します。

ニューヨークのメトロポリタン美術館、ロンドン・ナショナル・ギャラリー、アムステルダム国立美術館を中心に個人蔵の作品も加え約60点を一堂に展示します。中でもメトロポリタン美術館の傑作、フェルメールの《水差しを持つ女》とレンブラントの《ベローナ》は日本初公開作品となります。この貴重な機会を是非ご堪能ください。

主催: TBS、森アーツセンター

企画: 財団ハタステフティング

会場: 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)



ヨハネス・フェルメール
《水差しを持つ女》
1662年頃
Marquand Collection, Gift of Henry G. Marquand, 1889 (89.15.21)
The Metropolitan Museum of Art, New York, NY
Photo credit: Image copyright
© The Metropolitan Museum of Art. Image source: Art Resource, NY

広報お問い合わせ: 「フェルメールとレンブラント展」広報事務局(IMPRESSION内) 担当: 松井、安田
Tel: 03-6312-4098 Fax: 03-6862-8600 E-mail: sr@mbr.nifty.com

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報: 瀧、戸澤

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館